A TREASURY OF JAPANESE LITERATURE

日本の文学

25

谷崎潤一郎

中央公論社

日本の文学　25　©1967

谷崎潤一郎（三）

昭和42年10月5日初版発行
昭和48年3月1日11版発行

発行者　山越　豊

本文整版印刷　三晃印刷株式会社
扉・函貼印刷　株式会社トーブロ
色刷口絵印刷　株式会社大熊整美堂
口絵写真印刷　株式会社トーブロ
本文用紙　本州製紙株式会社
クロス　日本クロス工業株式会社
製函　加藤製函印刷株式会社
函ボール　佐賀板紙株式会社
製本　協和製本株式会社

発行所　中央公論社

東京都中央区京橋2丁目1番地
電話(561)5921(代)　振替東京34

目次

卍（まんじ）　5
武州公秘話　125
蘆刈　227
鍵　261
瘋癲老人日記　371
お国と五平　484
陰翳礼讃　498
注解　526
解説　ドナルド・キーン　542

口絵　「谷崎潤一郎肖像」　安田靫彦

挿画　「鍵」「瘋癲老人日記」　棟方志功

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongb

谷崎潤一郎(三)

卍（まんじ）

その一

先生、わたし今日はすっかり聞いてもらうつもりで伺いましたのんですけど、せっかくお仕事中のとこかまいませんですやろか？　それはそれは委しいに申し上げますと実に長いのんで、ほんまにわたし、せめてもう少し自由に筆動きましたら、自分でこのこと何から何まで書き留めて、小説のような風にまとめて、先生に見てもらおうか思たりしましたのんですが、……実はこないだ中ひょっと書き出してみましたのんですが、何しろ事件があんまりこんがらがってて、どう云う風にどこから筆着けてええやら、とてもわたしなんぞには見当つけしません。そんでやっぱり先生にでも聞いてもらうよりしょうない思いましてお邪魔に出ましたのんですけど、でも先生わたしのために大事な時間滅茶々々にしられておしまいになって、えらい御迷惑でございますやろなあ。ほんまによろしございますか？　わたし先生にはもう毎度毎度おやさしいにしていただきますもんですから、つい御親切に甘える気イになって、御厄介にばっかりなりまして、どないに感謝してもしきれへんくらいや思てます。そいであのう、いつかも大へん御心配かけましたあの人のこと、あれからお話せんならんのんですが、あれはあの後に申し上げました通り、あないに云うて下さいましたのんで、自分でもしみじみ考えまして、あんなりぶっつり絶交してしまいました。その当座は未練とでも云いますのんか、何かにつけて思い出されますもんですから、家にいてましてもまるでヒステリーのようになってましたけど、そのうちにだんだんあの人がええことない男やった云うことはっきり分って来まして、……主人も私が前は始終そわそわして音楽会や何や云うては出歩いてばっかりいましたのんに、先生のお宅い寄せてもらうようになりましてから、すっかり様子変りまして、絵エ画いたり、ピアノの稽古したりして、一日家に落ち着いてますもんですから、「この頃はお前も女らしなったなあ」なんぞ云いまして、蔭ながら先生の御好意よろこんでました。もっともわたし、あの人のことについては何も主人に云いませなんだ。「夫に過去のあやまち隠しとくのんよろしゅうないから、――――ことに肉体上の関係なかったのんなら告白しやすいわけやから、すべてを打ち明

けておしまいなさい」と先生は云うて下さいましたけど、……けどどうも、……それはまあ、主人にしましてもあるいはうすうす気イついてたかも分れしませんのですが、私の口からは何や云いにくうもありましたし、この後間違いないように自分さい注意してたらええのや思いまして、何事も胸に収めてたのんです。ですから主人は私が先生からどんなお話伺うて来ましたやら、それは知りませんでしたけど、いろいろ為めになること教せてもろたに違いない思て、そう云う心がけになったのんはええ傾向や云うてましてん。

そんなわけで、そいからしばらくはおとなしいに家い引っ籠ってましたもんですから、この様子やったらまあ安心や思いましたもんか、そうそう己も遊んではいられんから云うて、大阪の今橋ビルディングに事務所借って弁護士開業しましたのんが、あれが昨年の二月頃でしたかしらん。――――はあ、そうです。大学の方は独法やりましたのんで、弁護士にならいつでもなれたのんです。始めは何でもプロフェッサアになりたいように云うてまして、ちょうど私のあの事件ありました時分には、引きつづいて大学院の研究室の方い通ってましたのんですが、弁護士やる気イになりましたのんは別にこれちゅう理由あったのんではあれしません。そういつまでも私の実家の方に世話にばっかりなってましては義理も悪いし、私に対しても頭上らんと思うたのんですやろ。いったい主人は大学時代に秀才や云う評判で、たいへんにええ成績で卒業しましたもんですから、そう云う人間ならば云うのんで、嫁に来たとは云うもんの、婿を取るのも同様にして結婚したのんです。そいでもう私の親たちは主人を信用してまして、いくらか財産も分けてくれまして、まあまああせるには及ばんから、学者になりたかったら学者になるで、ゆっくり勉強するがええ。洋行もしたければ夫婦で二三年あっちい行てくるがええなど云うてくれまして、――――最初は主人も大そう喜んで、そんなつもりもあったらしいのんですけど、――――私があんまりわがままやのんで、実家の方笠に着て威張るのんや云う風に取って、それが癪に触ったのかも分れしません。しかし性質が学者肌に出来てまして、いつまでたっても書生流のぶっきらぼう抜けしませんし、あいそは下手ですし、それはそれは人づきあい悪い方ですから、弁護士なんぞになりましたとこで一向仕事やかいあれしませんね。そんでも毎日事務所いだけはきちんきちん出てましたが、そうなりましたら、私の方は一日家にぼんやりしてまして、しょうないもんですから、自然また、いろいろと、いったん忘れてたことが胸に浮かんで来るのんです。前には暇ありますと歌作ったりしましたが、歌は却って思い出の種になりますのんで、もうこの頃はせえし

ませんやろう？　そんで私、こうやってては、ろくなこと考えへんさかい、これは何とかせんといかん、何ぞ気イ紛れるようなことはと思いまして、――先生は御存じでしょうか、――あのう、天王寺の方に女子技藝学校云うのんありますねん。私立のつまらん学校ですねんけど、絵エと、音楽と、裁縫と、刺繍と、そいからまだほかにも何や、まあそんな風に科ア分れてまして、入学の資格なぞむずかしいことも何にものうて、大人でも子供でも自由に這入れます。わたし前にも日本画稽古してまして、下手ですけど、その方にならいくらか趣味持ってますもんですから、それい毎日、朝は主人と一緒に出かけるようにしまして、ともかくもまあ、通うことにしましてんわ。もっとも毎日とは云いましても、そんな学校ですから、休みたい時は勝手に休んだりしましたけど、――

主人は絵エや文学やにはてんと趣味ない方やのんですが、私が学校い行きますことは賛成してくれまして、それは結構や、ええ思いつきやさかい精出して行くがええ云うて、自分から勧めたくらいやのんでした。毎朝出かけますのんにも、私が行きますのんは九時のこともあり、十時のこともあり、自分の都合でいろいろになることありましたけど、主人の方も事務所暇やのんですさかい、何時になろうと大概待っててくれまして、阪神電車で梅田まで一緒に行き、そいから二人圓タクに乗って堺筋の電車通りの今橋の角で主人おろしまして私はずっとその車で天王寺い行きます。主人はそう云う風にして一緒に出かけますこと楽しみにしてたらしいのんで、「またもう一遍学生時代に復ったような気イするなあ」など云いますから、「夫婦づれで自動車で通う学生あったらおかしいやないか」云いましたら、あはあは笑うたりなんぞして上機嫌でした。午後に帰ります時分にもなるべく誘ってくれるように云いますのんで、電話で打ち合わせしといて、事務所い寄ったり、難波や阪神で待ち合わしたりして、一緒に松竹座なぞい行ったりしました。そう云うようなあんばいで主人との間は大変工合ようにいってましたのんですが、あれは四月の半ば頃でしたか、わたしほんのつまらんことで学校の校長さんと喧嘩してしまいました。それはあのう、妙なことですが、学校でモデル使て、それにいろいろの服装さしたりポーズ取らしたりしまして、――日本画の方は裸体のデッサンはやりませんですけど、――それ写生する時間ありますねん。ところがちょうどその時分に使てたのんが、Y子さんちゅう十九になる娘さんで、大阪では有名な美人のモデルやそうで、それに楊柳観音の姿さしまして、――まあ、いくらかそんな風すると裸体に近うなりますのんで、多少裸体の研究も出来る云うわけやったのんです。

私それをほかの生徒たちと一緒に写生してますと、或る日校長先生が教室い這入って来られて、「柿内さん、あんたの絵エはちょっともモデルに似ておらんようですな、あんたは誰ぞ、ほかにモデルあるのんではありませんか」云われて、何やこう、意味ありげに笑われますねん。それが校長先生ばっかりでのうてほかの生徒たちも、先生が笑われるあとからクスクス忍び笑いするのんです。わたし思わずはっとしまして顔赧うなりましてんけど、どう云うわけで赧うなったのんかその時は自分で分れしませなんだ。今になって考えますと確かにあの時赧うになったような気イしますねんけど、あるいはそうでなかったかも分れしません。しかし「ほかにモデルがある」云われましたら、そう云われるまでは自分では意識してえしませなんだのんに、何やしらんはっと胸いこたえるもんありましてん。でも、そんなら誰モデルにしたかちゅうことは、はっきりしてたのんではあれしません。ただ何やしらん頭の中にY子さん以外の或る人の印象刻みついてて、Y子さんを眼の前に見ながら、知らず識らずその印象の方モデルに使てた、――使うつもりものうて、自然と筆がその人の姿写してた、云うだけやのんです。

もう先生にはお分りになっておられますやろが、その、わたしが無意識のうちにモデルにしてた人云うのんが、――どうせ新聞にも出ましたのんですから、云うでしまいますが、――徳光光子さんやのんです。（作者註、柿内未亡人はその異常なる経験の後にもわりに寝れた痕がなく、服装も態度も一年前と同様に派手できらびやかに、未亡人と云うよりは令嬢のごとくに見える典型的な関西式の若奥様である。彼女は決して美女ではないが、「徳光光子」の名を云う時、その顔は不思議に照り輝やいた）けど私は、まだその時分には光子さんとお友達になってたわけではあれしません。光子さんは洋画の方習ておられて、教室も違てましたよって、もの云う機会もなかったはずです。ですから光子さんの方では私の顔知りなされしませなんだか、知ってなさっても別に気イに留めておられなんだのんですやろ。私の方にしましてもそれほど光子さんに注意してたとは思われしませんのですが、でも何とのう好きそうな人や云う風に考えてたに違いないのんです。それもしかし、もの云うたことないくらいですよって、性質やとか気だてやとか、そんなこと分れしませんでしてんけど、――まあ、何とのう、ただ全体の感じやのんですなあ。そう云えば私が案外早うから光子さんに気イつけてました証拠には、もうその時分に誰から聞いた云うでもなしに、光子さんの名前やお所を、――*船場の方にお店のある羅紗問屋のお嬢様で、住まいは阪急の蘆屋川にあるのや云うようなことま

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongb

でちゃんと知ってましてん。そいでわたし、校長さんにそんなこと云われましたのんで、あとでいろいろ考えてみたのんですが、なるほどその絵エ光子さんに似てますけど、故意に似ससした云うのんではなし、また故意に似さしたにしたところが、ぜんたいモデルにY子さん使う云うのんはY子さんの顔写すのん目的とはちがいますねんやろ？　ただY子さんに観音さんみたいな姿さして、その体つきや、白衣の襞の工合研究して、なおその上観音さんの感じ出せたらええわけですやろ。Y子さんはモデル女の中では美人かも分れしませんけど、光子さんの方がもっと美人で、その絵エの感じに合うてるとしましたら、光子さんモデルにしても差支いないではあれしませんか。――――私そない思たのんですねん。

その二

ところがそいから二三日たちますと、またモデルの時間に校長先生が這入って来られて、私の絵エの前い立ち止まってにやにや笑われますねん。そして「柿内さん」云いなさって、「柿内さん、どうもこの絵エ変ですなあ。ますますモデルに似んようになって来ますね。いったいあんたは誰モデルにしておられるのんですか」と、冷やかすような眼つきで私の顔じいッと視つめなさるのんです。「おや、そうですかしらん。モデルに似てえしませんか」と、私癪にさわりましたもんですから、わざとにそない云うてやりましてん。そやかて校長先生は絵エの先生ではないのんですやろ？――――はあ、日本画の方の受持は筒井春江先生やのんで、常時お越しになるわけやのうて、ときどきやって来られて、どこが悪いやとかここをこないせえやとか云われますのんで、常は生徒たちが勝手にモデル見て画いてますねん。校長先生云うのんは、随意科の方に英語ありまして、それ教せてなさるのんやそうですけど、学士でも何でもあれしませんし、どこの学校出られたのんか、学歴やかいもろくろくないらしい人やのんです。それは後になってから分りましてんけど、教育家云うよりは学校商売上手な人やのんで、つまり一種のやり手やのんですねんなあ。そう云う校長さんですから絵エのことなんぞ分るはずあれしませんし、餘計な嘴入れる必要はないのんです。それにまた、学科の方はたいがい専門の先生たちに任しきりにしてめったに教室見廻ることやかいあれしませんのんに、その時間に限ってわざわざやって来られて、わたしの絵エ何やかんやと云いなさるのんですねん。「へえ、そうですかなあ、あんたはこの絵エこのモデルに似てるつもりなんですか」と、皮肉な口調で云われましたもんですさかい、こっちも空惚けてやりまして、「はい、わたし絵エは下手ですから、似てえへんかも分れしませんけど、でも自

分では一生懸命モデルの通りに写しましたつもりです」云いますと、「いや、あんたは下手ではありません。なかなか上手に画けてます。しかしこの顔は、どうも誰ぞほかの人に似てるように思われますね」と、またそない云いなさるのんです。「あゝ、顔のことですか、顔はわたし、自分の理想にかなうように画いてみたのんです」云いますと、「ではあんたの理想云うのは誰のことですか」と、えらいひつこいですねん。そいからわたし、「これは理想やのんですから、別に誰ちゅう実在の人間描いたわけではあれしません。観音さんの顔にふさわしいようになるだけ清らかな感じ持たしたのんですが、そいではいきませんですやろか。顔までモデルに似ささんと悪いのんですやろか」云いましてん。すると、「あんたはたいそうむずかしい理窟云いなさる。しかし理想通りのもんが思いのままに画けるようやったら、この学校い絵ェ習いに来るには及ばん。理想通りに画かれないからこそモデルについて写生するのんではありませんか。自分勝手の絵ェ画くくらいならモデル使う必要あれしません。ましてこの観音さんがモデル以外の或る実在の人間に似てるとしたら、あんたの理想云うもんもはなはだ不真面目に思えますね」云われるのんで、「わたしちょっとも不真面目とちがいます。仮にこの顔誰ぞに似てても、その人の顔観音さんの感じ出すのに適してましたら、それ写しても藝術的に疚しいことない思います」云いますと、「いや、それがいかんのんです。まだあんたは一人前の藝術家ではありません。あんたがその人の顔清らかであると感じられても、万人がそう感じるかどうか、それが問題です。そう云うことからとかく誤解が起るのんです」云うわけですねん。「へえ、誤解て、どんな誤解起りますかしらん？　ぜんたい似てる似てる云うて、誰に似てるのんですか、どうぞ云うて下さい」云うてやりましたら、ちょっとどぎまぎして、「あんたは強情な人ですねえ」云われて、そんなり校長先生は黙ってしまいはりました。わたしその時は校長さんやり込めてやったのんで、喧嘩に勝ったような気イして、えらい痛快でしてんわ。けど大勢の生徒たちの前で議論したもんですよって、えらい評判になってしもて、間ものうけったいな噂ひろまるようになりましてん。つまりわたしが光子さんに対して同性愛捧げてる、光子さんと私とが怪しい云いますねん。――それが前にも云いましたように、まだその時分は光子さんともの云うたこともなかったほどでしたさかい、でたらめもでたらめ、ひどい譃やのんです。もっともわたしは、うすうすみんなが蔭口云うてることぐらい感づいてましたもんの、それがそないに騒がれてようとは夢にも知りませなんだ。何せ身イに覚えないことやのんですから、何云われても平気なもんで、

まあ、世間の人云うたらたいがいえ加減なことを云い触らすもんや。附き合うてもいえへん同士怪しいやなんて、なんぼ作りごとにしたかてようまあそんな讒ばっかり云えたもんや思て、あんまり馬鹿々々しいて腹も立てしませなんだ。ただ心配になりましたのんは、わたしはそいでかめしませんけど、光子さんの方はどう思てなさるやら、さぞかしえらい係り合いになって迷惑してはるに違いない思いましたら、そいからはこう、学校の往き復りなぞに出遇うことありましても、何や気イさして、前みたいに顔しげしげと見守ること出来しませなんだ。そうか云うて、思い切りようこっちから話しかけて、あやまる云うようなことも、――それが却ってけったいなことになりますし、なおさら迷惑しなさるかも分れしませんのんで、そないするわけにもいけしません。そんでわたし光子さんに出遇いますと、出来るだけあやまる心持外に現わすようにして、小そうになって、下向いて、こそこそ逃げるように傍通り抜けましたが、そないしながらも、先様怒ってはれへんやろか、どんな眼つきしてはるか、やっぱり気がかりやもんですから、擦れちがう拍子にそうッと顔色うかがうたりしました。ところが光子さんの様子前とちょっとも変ったようなとこのうて、別にこっちを不愉快に思てなさる風にも見えしません。あ、そうそう、ここに写真持って来ましたよって、これ見て下さいませ。これは揃いの着物出来ましたとき二人で記念に撮りましたのんで、新聞にも出たことある問題の写真やのんです。これでもお分りになるように、こうして並んでましたら、わたしが引き立て役勤めてる形で、光子さんは船場あたりの娘さんの中でもちょっととびきりの器量やのんです。（作者註、写真を見ると、お揃いの着物と云うのはいかにも上方好みのケバケバしい色彩のものらしい。柿内未亡人は束髪、光子は島田に結っているが、大阪風の町娘の姿のうちにも、その眼が非常に情熱的で、潤おいに富んでいる。一と口に云えば、恋愛の天才家と云ったような気魄に充ちた、魅力のある眼つきである。たしかに美貌の持主には違いなく、自分は引き立て役だと云う未亡人の言は必ずしも謙遜でないが、この顔が果して楊柳観音の尊容に適するかどうかは疑問である）先生はこんな顔だちどないお考えになりますか？　日本髪よう似合うてますやろ？――はあ、お母様日本髪好きやとか云うことで、ときどき結やはりまして、学校いもその頭で来やはりましてん。――何せそんな学校ですから、制服なんぞあれしませんし、日本髪の着流しでも何でもかめしませんのんですから、わたしなんか袴穿いて行たことあれしませなんだ。光子さんも、たまに洋服着なさることありましてんけど、和服の時はいつでも着流しでしてん。この写真では髪のせえで私よ

り三つぐらい若うに見えてますけど、ほんまは一つ歳下の二十三、――生きておられたら今年二十四ですねん。しかし光子さんの方が一二寸せえ高いでしたし、それに綺麗な人云うもんは、自分では器量鼻にかけへんつもりでも、やっぱり何とのう自信のある様子態度に現れるもんですやろか、それともこっちに引け目ありますとそない見えますのんですやろか、その後親しいになりましてからでも、歳から云うとわたしの方が姉さんでありながら、いつでも妹みたいな気イしてましてん。

で、その時分、――と云いますのんは、話前に戻りまして、まだお互いにものも云わんといてました時分、前に云いましたようなけったいな噂立ちましたことは光子さんの耳いも這入ってえへんはずあれしませんのんに、光子さんの様子はちょっとも前と変れしませんねん。わたしの方ではとうから綺麗な人や思て、噂立ちません時分には、光子さんが通りなさると、それとのう傍い寄って行ったりしましてんけど、光子さんの方ではてんと私やかい眼中にないようなあんばいで、すうッと通ってしまいはりますが、その通られたあとの空気までが綺麗なような気イするのんです。もしも光子さんが例の噂聞いてなさるとしたら、なんぼ何でも私云うもんに注意しなされへんわけあれしませんやろ。イヤな奴ッちゃ思われるか、気の毒や思いなさるか、何とか素振に見えそうなもんですのんに、さっぱりそう云う風しなされへんもんですから、私の方もだんだんずうずうしいになりまして、また傍い寄って顔のぞき込むようになりましてん。すると或る日、お午の休みに休憩所でばったり出遭うと、いつでもすうッと澄まして通り過ぎてしまいなさるのんに、どう云うわけやにッこりしなさって、眼ェで笑いなさるのんです。そいで私思わずお時儀してしまいましたら、すぐつかつかと寄って来られて、「わたし、あんたにこないだから大変失礼してました。どうぞ悪うに思わんといて頂戴」云いなさいますねん。「まあ何云いなさるのんです。わたしこそ詫まらないかなんだのんですが」云いますと、「あんた詫まりなさることあれしませんわ。あんたは何も知りなされへんのんです。わたしたち陰れよとしてる者いますから、気イつけなさいや」云いなさいますねん。「へえ、それは誰ですか」と尋ンねますと、「校長先生ですわ」と云われて、「ここでは委しい話出来しませんさかいどこぞ外い行て、お昼御飯一緒に附き合うてもらわれしませんか？　そしたらいろいろ、ゆっくり聞いてもらいますが」云いなさるもんですから、「どこいでも一緒にいきますわ」と、二人で天王寺公園の近所にあるレストランい行きました。そいから光子さん洋食たべながら話して下さったのんですが、わたしたちのことについて悪い噂云い触らしたのんは実は校長さ

んや云いなさいますねん。なるほどそう云われて見ると、用もないのんに教室い這入って来て、みんなの前でわざと私に恥掻かすようなことする云うのんが、だいぶんおかしい。悪意あってしたもんとしか思われへん。けどいったい何のために校長さんがそんな噂触れ廻るのんかと云いますと、目的は光子さんにあるのんやそうで、何でも彼でも光子さんの品行について悪い評判立ちさいしたらええのんや云うのんです。それがまたどう云うわけや云いますと、その時分光子さんに結婚の話持ち上ってまして、先はM云う大阪でも有名なお金持の家の坊々で、光子さん自身は気イ進んでおられなかったそうやのんですが、お宅ではたいそうその縁談望んでおられたし、先方でも光子さん欲しがっておられた。ところが或る市会議員のお嬢さんで、やっぱりそのMさんへ縁談持ちかけてる人あって、光子さんの方と競争の形になってた。

――光子さんは競争のつもりやのうても、市会議員の方では大敵が現れた思いましてんやろ。何しろMさんの坊々は光子さんの器量にあこがれてラブレター寄越したくらいやのんですから、それは大敵に違いあれしません。そいでその市会議員の方では八方い運動して、なろうことなら光子さんにケチ附けよと云うのんで、もう今までにも随分いろいろと、光子さんほかに男あるらしいとか、あることないこと云い触らしてましたんやそうですが、まだそいだけでは飽き足らんと、とうど学校の方い手エ廻して、校長さん買収したのんですなあ。あ、そうそう、そいからその前に、――――話がほんまにこんがらがってますけど、――――その前にその校長さんが、校舎の修繕するから云うのんで、光子さんのお父様に、お金千圓一時融通して貰えまいか云うて来たことありますねんと。光子さんのお宅ではお金はたんとありまっさかい、千圓ぐらい何でもなかったのんですやろけど、おおびらに寄附金募るのんなら聞えてるが、一時融通してくれと云うのんおかしい、それにあんだけの校舎が千圓のお金で修繕出来るはずもないし、分らん話や云うようなことで、お父様は断られたのんやそうですねん。光子さんの話やと、そんなこと云うてはお金のありそうな生徒の家頼み歩くのん校長さんの癖やそうで、借ったお金は一べんでも返したことあれしませんねんと。それも校舎の修繕に使うのんなら格別、校舎云うのん豚小屋みたいに汚うてぼろぼろになったなり、荒れ放題にしたあるのんです。

――はあ？　いゝえ、そのお金は自分の生活費に使てはりますねん。校長さん云いましても高等幇間みたいな人で、おまけに奥さんがやっぱりそこの学校の刺繍の先生してなさって、夫婦でお金持の生徒に取り入っては、日曜のたんびに遠足会やとか、そんなことばっかりしてはりますさかい、なかなか暮らし派手ですねん。そいで

お金貸したげたら、たいそう御機嫌ええのんやそうですけど、断ったら、陰い廻ってその生徒のことえらい悪う云やはりますねんと。つまり光子さんにはそう云う恨みあるとこいさして、市会議員に頼まれたもんですから、どんな悪辣なことかてしかねへんのです。「ですからあんたわたし陥れるために利用しられなさったんやわ」と光子さんは云われますねん。「まあ、そんな深いわけあったのんですか。そんなこととはちょっとも知りませんなんだが、それにしてもあんたと私とは今日までお附き合いもしてませなんだのんに、あんまりでたらめが過ぎるではあれしませんか。捏造する人も捏造する人なら、みんながそれ真に受ける云うのん不思議でなれしません」云いますと、「あんたはそれやからのんきや」云いなさって、「噂立ったもんやさかい、二人はわざと学校ではもの云えへんのやと、みんなそない云うてますし、それどころか、こないだの日曜に二人大軌電車に乗って奈良い行くとこ見た云う人さいあるのんですね」云いなさるのんです。わたし呆れてしもて、「まあ、誰がそんなこと云いますねんやろ」云いますと、「なんでも校長さんの奥様から出たらしいのんです。それはそれはあんたが考えてなさるより十倍も二十倍も陰険やのんですから、気イ附けなさいや」云うわけですねん。

その三

そんで光子さんは、ほんまにあんたに気の毒でなれしませんし、すみませんすみませんと何遍も云いなさいますから、わたしの方が却って気の毒になりまして、「いゝえ、いゝえ、あんた悪いことあれしません。憎いのんは校長先生です。教育家ともあろうもんが、何ちゅう卑劣な、……けど、わたしでしたらどんなこと云われようとちょっとも構めしませんけど、あんたこそお嫁入り前の身イで、そんな悪辣な人たちの罠にかからんように気イ附けなさいや」と、こっちからあれこれと慰めたげましたら、「きょうはあんたにすっくりお話すること出来て、ほんまにええことしました。こいでようよう胸すッとしました」云われて、「あのう、こうして二人で話やかいしてたら、またなんやかんや云われますから、こんだけにしときまひょなあ」と笑いなさるのんです。「せっかく友だちになったのんに名残り惜しいですなあ」と、わたし何や、ほんまにそんな気イしましてしばらくもじもじしてました。すると光子さんは「あんたさいよろしかったら友だちになりたいのんですが、今度内い遊びに来なされしませんか。わたしハタからどない云われても恐いことあれしませんわ」云いなさるのんです。「はあ、わたしかって恐いことあれしませんわ、あんまりうるさ

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongb